

## 会議録

会議の名称	令和３年度 第３回座間市在宅医療推進協議会		
開催日時	令和 ３年 ７月 １３日（火）１８時３０分～２０時００分		
開催場所	サニープレイス座間 多目的室		
出席者	須藤委員、松山委員、小林委員、石黒委員、石川委員、大石委員、 吉田委員、藤川委員、坂間委員、吉永委員、筒井委員、下川委員、 樋口委員、松永委員、落合委員 座間市在宅医療連携支援室 比留川室長、大森相談員、野中相談員		
事務局	健康部介護保険課地域支援係 小林係長、会計年度任用職員 板倉、福澤		
会議の公開可否	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	０人
非公開又は一部公開とした理由	座間市在宅医療推進協議会開催要綱第６条第２号に該当するため		
議題	議題１ 活動報告（座間市地域在宅医療・介護連携支援室） （１）活動報告 （２）今後の活動予定 （３）連絡会設立ワーキングの活動について  議題２ 今年度の取り組み ＩＣＴ、Ｗｅｂの活用について  議題３ その他 座間市第４次地域福祉活動計画アンケートについて		
資料の名称	１ 令和３年度第３回座間市在宅医療推進協議会次第 ２ 第２回座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会 会議録 ３ 令和３年度座間市在宅医療連携推進協議会 検討事項 ４ みまわりネットワーク ５ 座間市第４次地域福祉活動計画アンケートにご協力お願いします！		
会議の結果			
支援室	事業進捗状況について、前回５月１１日の親会議から現在までの活動を報告する。  ・研修会について		

5月31日に研修のワーキンググループを立ち上げた。令和3年度の研修は、9月、11月、1～2月、3月の4回を実施する計画とした。このうち3月は市民向け講座とし、テーマは「人生会議」とする。また、6月25日の研修ワーキング会議では、第1回の研修を9月17日（金）19時開会とし、ZOOMにより井上整形外科院長に講義を頂くことに決定し、開催までのスケジュールについて協議した。今後はできるだけ多くの方にご出席頂けるよう、それぞれの研修会の準備を進めていく。なお、第4回の市民向け講座を除く全ての研修をZOOMにより実施することにした。

・介護事業者連絡会設立準備ワーキンググループについて

6月7日に改めて立ち上げ、これまでの経過や設立の必要性などを確認した。7月5日に、今まで進められていた医療関係者の相談窓口、連絡会等へ、設立の必要性や連絡会で行ってほしい事柄などを把握するためのアンケート調査に関する協議を行い、今後アンケート調査の内容について調整することになった。また、その他の連絡会のグループ分けについても協議を行い、同様に進めていく予定とした。

今後は、各連絡会の設立に向けた取り組みを進めるとともに、ケアマネ協議会等の既に設立されている連絡会等へ、メリット・デメリットや会費等について把握するためのアンケート調査の協力依頼等について調整していく。

・資源の活用について

今年2月に行ったアンケート結果をもとに介護情報誌3種類（ケアマネタイム、ケアマネポケット、医療機関と介護事業所マップ）を更新し、5月より居宅介護支援事業所、包括支援センターに配布を開始した。現在約7割の事業所に配布が終了した。また、新規や閉鎖となったサービス事業所や医療機関を確認しており、新たに「相武台セントラル歯科」「訪問看護ステーション ミモザ」の2件について、アンケートの回答、情報開示の同意を頂いています。その他今月1日に居宅介護支援事業所「ケアサポートひばり」が新設され、アンケートを郵送し回答待ちとなっている。

・在宅医療介護連携の課題抽出について

アンケートにより抽出した課題として、市内の半数以上の診療所の医師が主治医意見書作成時の情報が欲しいと回答した。かかりつけ医であっても、日常生活の様子を正確に把握しきれないことがあり、特に認知機能等

の評価が認定調査の結果と大きく違うことがある。早期に適切な認定が下りるようにできればと考え、ケアマネに主治医意見書事前問診票の必要性についてご意見を頂きました。その結果ほとんどのケアマネは、記入方法や提出方法であまり負担とならないなら、あった方がよいというご意見だった。介護保険課認定係の職員（２名）と関係する事業所の方々数名にワーキンググループにご参加いただき、作成する、しないを含めて検討を始ようと考えている。ワーキンググループのメンバーについては、ざま介護支援専門員協会会長の藤川氏にメンバーの推薦を依頼している。

- ・在宅医療介護関係者への相談支援について

前回の会議以降の相談件数は５件。相談内容は、精神疾患での入院に関する相談、市外の病院より退院支援に関する相談、施設入所に関する相談、一般市民からの認知症に関する相談だった。

- ・医療・介護関係者の情報共有の支援について

ＩＣＴ「みまわりネットワーク」の推進をすすめている。現在の活用状況は、アカウント登録が１１０件、利用者の部屋が６６件、その中の連絡用が２１件、個人用が４５件。ＩＣＴについては、在宅医療推進協議会の課題で優先順位１位となっていることを踏まえ、今年度はまず広く周知し、登録いただけるように説明会や研修会等を開催したいと考えている。詳細は検討中、詳しく決まり次第報告させていただく。

- ・近隣市との情報共有

厚木、綾瀬、海老名、大和、座間の県央５市在宅医療・介護連携推進事業情報交換会が６月２５日に海老名市で開催され、相談員２名で参加した。内容は各市から今年度の事業の実施について報告があり、コロナ禍で思うように動けない中で各市工夫をして取組んでることが分かった。厚木市はクラウドファンディングで２００万円を集め「やっぱり家がいい」という漫画を作成した。この漫画を動画にして医師らが「アテレコ」するとのことだった。とても評判がよく、次の講演を望む声が多いとのことだった。今後も他市の取組みで良い内容は取り入れるなど、事業を推進していければと思っている。

- ・対応策の評価、改善について

	<p>２０１９年に高齢者入所施設を訪問した際に把握した施設入所者の救急搬送がスムーズにできないという課題について、座間消防署にお話を伺う中で、搬送をスムーズにするためには情報提供が重要とのことであった。介護保険課と消防署が共同で作成した「救急隊への情報提供」の書式の使用について、各施設に使用依頼をした。その後１年以上経過し、「救急隊への情報提供」の使用状況を確認するため、消防署に調査の依頼をし、令和２年度の使用状況の回答を得た。その結果、全体の使用率が４０％ほどで、まだまだ普及していない現状が分かった。今後、どのように普及させていくのか検討する必要があると考えている。</p> <p>また、２０１８年に作成した「入院時情報提供書」の提出先の病院に、提出状況や問題点・課題、提出方法の変更はないか等確認し、今年の８月に更新した一覧を居宅介護支援事業所に提出する予定である。昨年厚木保健福祉事務所が県央版の入院時情報提供書を作成し、各病院に提出方法を聞き取った経緯があるため、厚木保健福祉事務所に確認したところ、更新は随時とし変更があった場合のみ連絡をくれることになっているが、連絡が遅くなる可能性があるため、病院協会を通じて確認をするとのことだった。なお、北里大学病院、国立相模原病院、県立がんセンターは連携室から直接照会し回答を頂いた。８月には厚木保健福祉事務所からの情報とともに、最新の情報が提供できるように準備を進めていく。</p>
委員	今のことにに関して、ご意見・ご質問をお願いします。
委員	消防への情報提供の４０％という数字は、分母は全体の搬送に対してのということか。
委員	座間市内の高齢者施設、老健・特養・グループホーム・有料老人ホーム・サ高住、全ての高齢者入所施設からの救急要請があって出動し、一年間の合計の中で情報提供の際に使用された割合である。
委員	厚木市のクラウドファンディングで２００万円集めたというのは、どこが主体で行ったのか。
委員	厚木市は行政が主体でこの事業を進めているため、市が行った。すぐに２００万円集まったと聞いている。

委員	連絡会設立支援ワーキングについては、補足をしてほしい。
委員	<p>設立の話についてはもう数年経っている。もう一度機能を再確認しながら、それぞれの団体、事業体で課題があり、また横のつながりがまだない、様々な団体が出来上がっていくなかでそれをまとめていく機能がないうという問題があり、そこをどうにかしていかなくはということである。役割としては、あくまで連絡会を設立することが目的ではなく、それぞれの団体で上がってくる課題を共有していくこと、場合によっては行政と話をすること等を行うための団体の設立を支援していくというものである。それぞれの団体でまずは集まるのが一番始めにすべきことと考えている。</p> <p>連携室の協力を得て話し合いを進め、かなり加速したという印象はある。アンケートの作成や連絡会を続けて行くためのツールとしてデジタル的な要素を取り入れることも考えている。前提として、事業体のみなさんの連絡会というところなのでそこを支援していくということであり、どのような組分けにするかについては現状検討中である。次回までに案として示せればと考えている。</p>
委員	<p>医師会や歯科医師会も組織として成り立っているが、連絡会があることのメリット、どのようなことがあるか聞きたいと思う。</p>
委員	<p>ケアマネ協会は前年度ほとんど活動が出来ていないが、今年度は10月11月頃に三市合同研修を海老名・綾瀬・座間で行う予定である。</p> <p>まず、介護保険で改定になった新しい情報を共有したり、ケアマネはサービス事業所とのつながりは割とあるがケアマネ同士横のつながりが薄いというところがあり、ケアマネとして同じような悩みを抱えているという現状を共有でき、相談できる場所になっている。包括にケアマネの相談機能があり、主任ケアマネに相談することもできるが、実際にケアマネとして実務していて、同じ立場で仕事をしている者同士の話ができるところがメリットであると感じている。</p>
委員	<p>座間市の訪問看護連絡会はコロナ感染が起きてからは活動を控えている。ラインや電話での相談を個人同士で行ってお互い解決し合っている。神奈川県連絡会があり、県央地区の連絡会はZOOMで研修や会議を行っている。座間市の訪看ステーションは約半数がこの連絡会に入っている。</p>

	<p>事業所の数もどんどん増えているのでなかなか把握しきれないでいるが、一度9月に集まり顔を合わせることで、横のつながりも強くなると考えている。</p> <p>しかし、事業所は感染者が出たら、濃厚接触者になったら、どう利用者を振り分けるかが悩みである。今のところは感染者が出たということはないようで、感染対策をしながら行っているという状況だが、このことについては考えていかななくてはと思っている。</p>
委員	<p>コロナ対策は大変である。歯科医師会も研修会はZOOMで行っている。ワクチン接種も進んできていて、ワクチン接種の手助けはどういうことができるか、話をしている</p>
委員	<p>報告の中であった、主治医意見書作成のための事前問診票に関して、ワーキングのメンバーに包括も入った方がいいのではと考えている。更新の時期や、包括が関わっているケースであれば情報提供できることもある。</p>
支援室	<p>ワーキングの構成については、介護支援専門員協会からケアマネの代表を推薦いただく予定であるが、その他は検討中である。病院関係や包括等の関係者に対しては、またご協力頂きたい場合改めて依頼させていただく。</p>
委員	<p>連携の目的は情報交換が主になると思う。法改正の解釈が事業所によってまちまちであったり、悩んだりということがあり、ひいては誤った解釈が利用者の不利益になることもあるので、情報交換を行うことで是正していきたい。行政に対しても、困っていることやこんな課題があるということ等を束になって意見が言える環境を作りたい。</p> <p>また、小規模な事業所が多いので合同で研修会を実施していきたいとも考えてえている。デイサービスは利用者が色々な物を作成する機会が多いので年一回共同で作品展を開催し、利用者の生きがいやモチベーションの維持に繋がられないかということを目的にして作っていかれたらと考えている。</p>
委員	<p>先ほどのクラウドファンディングも参考になるのではないかな。</p>

支援室	<p>3 今年度の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T、W e b の活用について</li> </ul> <p>I C Tとは、インフォメーション&amp;コミュニケーション、テクノロジーの略で通信技術活用したコミュニケーションを意味する。厚生労働省は、2025年を目途に重度な要介護状態となっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指している。</p> <p>その地域包括ケアシステム構築のために保険者である座間市は、地域包括ケアシステムの一環として介護サービス利用者の医療及び介護に関する情報についてI C Tを利用して共有するシステムを構築し、地域に密着した効率的な医療と介護サービスの提供をあげました。医師会が中心となって、座間市の包括ケアシステムの貢献に資する、医療・介護情報ネットワークシステムを立ち上げた。このシステムが帝人ファーマのバイタルリンクというシステムで、この愛称を「みまわりネットワーク」としている。この「みまわりネットワーク」でできることは、①多職種間でパソコンやスマートフォン、タブレット等を用いて利用者の情報を共有すること。②利用者の同意を得て利用者に関係する医療機関やサービス事業所等が登録し情報共有を行うこと。これは、たとえば体に湿疹や褥瘡のようなものができたことにヘルパーや訪問看護師が気付いた場合、写真をドクターに送り、薬を処方してもらったり、対処方法を関係者全員で共有したりすることができる。その他入院時診療情報提供書を入院先の病院に送ることも可能である。また、チャットやグループラインのような機能や掲示板にイベント等のお知らせを掲載すること、担当者会議やカンファレンス、W e b診療、メール機能なども利用できる。このメール機能は認証が必要なことからアウトルックより安全性が高い。この様に時間や場所に左右されず情報共有が可能になり、使いこなせばとても便利なものである。連携室でI C Tに関する説明会、研修会を検討しているので、まずはそれにご参加いただきたいと思います。登録の申請書を提出頂き、バイタルリンクのインストールに伺い、利用開始となります。まずはどんなものか実際に使ってみてほしい。</p>
委員	<p>2年前よりも各論的に各事業において少しずつ進んでいることを実感した。みなさんのご協力あつてのことだと思って感謝している。3年ぐらい</p>

	<p>前から規約を作り、細々といくつかの事業所同士で運用している。私も使用しており、使いやすいと感じている。この会議そのものもバイタルリンクのネットワークを使って行うことが可能。まずは1回やってみるというのが一番実感してもらえと思うので、検討して頂きたい。</p>
委員	<p>I C Tについていかがですか？</p>
委員	<p>当事業所も入っているが、共有のパソコンでのチェックが追いつかず、ケアマネさんに「見た？」と言われてバイタルリンクを確認すると新しい情報が載っているということがよくある。逐一確認するというのは出来ないで、新しい情報が出た時に個人のスマホに通知が来るとか、何か機能があると思うので活用できればと思う。機能を最大限に活用したいと思っている。</p>
委員	<p>個人のスマホを登録すればアラームが鳴るように設定可能である。同じようなオーダーが何件かあれば、連携室を通して帝人ファーマに連絡する方が効率的である。</p>
委員	<p>歯科医師が往診に行って、その人がどんな薬を飲んでいて、どんな病気かということを医師に確認したい場面がたまにあるが、そんな時 I C Tがあると非常に便利だと思う。バイタルリンクに情報があるのかどうかはバイタルリンクにアクセスしないと分からないということか。</p>
委員	<p>情報を共有するためにはいくつかのステップがあり、当然自分が使える状態になる事が必要である。また、患者さんを登録することが必要である。その際、利用者の承諾を得る必要があり、必ず全患者さんをバイタルリンクに載せているわけではない。急に患者さんの指示を下さいと言われる場合もあって事業所同士のファイルを作って情報共有をするということもしています。</p>
委員	<p>バイタルリンクは管理者権限がある人しか患者さんの情報を共有するための部屋を作れない。また、管理者がその情報を見られる事業所を指定する必要がある。全く関わりの無い事業所は見られないようになっていて、管理者による操作が必要です。</p>



委員	管理者が誰なのかを探す必要があるということか。
委員	その通りである。
支援室	基本的に座間市の場合、管理者はケアマネである。医師も管理者になれるが、要介護認定を受けていてケアマネが付いていれば、ケアマネに連絡をすると確実に管理者が分かるようになっている。
委員	技術的にわからないことばかりで、Web もできない状況で、いろいろな情報をこれから学んでいかなくتهはいけない事業所があると思う。やらなくてはと思っているがなかなかできないのが現状である。
委員	<p>困ったら業者さんに問い合わせるのが早い。</p> <p>ネットの世界自体がすごく怖いという気持ちもあると思う。別の研修で聞いた話だが、今の時代は例えばケースファイルを紙で管理するよりデジタルで管理する方が安全だと言われている。紙ベースではだれが紛失したか分からないがデータだと全て追うことができる。バイタルリンクの研修でも、リテラシーとか、怖いと思う気持ちのハードルを下げることも必要だと思う。そこは業者さんがうまく説明してくれると思います。</p> <p>連絡会設立支援ワーキングでも、バイタルリンクのZOOM機能をうまく使い、ミーティングを率先してやっていく、そして皆さんの使用感が増えていくと、入りやすくなっていくかなと考えている。一緒にレベルアップしていきたいと考えている。</p>
委員	実際に患者さんのことを松山先生とやり取りしている。正直、ケアマネ、居宅の利用率が少ないのではないかと思う。ケアマネ協会の役員でも、バイタルリンクに登録していない事業所が結構あり、知らないということがよくある。ケアマネ協会としても県からの研修案内等をバイタルリンクのケアマネの部屋でUPできればいいと思う。利用登録が伸びないのは、どれだけ登録しているかということと、うまく説明ができないというところが原因だと思う。ケアマネ協会としても考えていきたいと思っている。
委員	病院でも端末が1台しかなくて、設備的な問題は各事業者によって違いがあると思う。業者からの説明では、座間市の個人情報管理基準をクリア

	<p>していて、セキュリティは高いが、ソフトをインストールするパソコン自体がウィルス感染していた場合、他者に見られてしまうということが避けられない場合もあると聞いた。パソコン自体のウィルス対策が万全である必要があり、安心な部分もあるがそのような一面もあるということは知ったうえで判断したほうがいい。ツールとしてはとても便利で、ZOOM機能の使い勝手も非常によく、検討する価値は高いと感じる。</p>
委員	<p>導入することへの抵抗感はあると思う。FAXで情報のやり取りをする場合、名前を一部伏せたりするが、同姓同名の方がいて情報のミスリードということも実際にある。バイタルリンクは、市が導入したもので規約もしっかりしている。FAX以上、電話や対面以下ではある。あまり難しく考えず、今日のこの申請書に名前を書いて出してもらえればと思う。</p>
委員	<p>同意が得られている方全てを入れることが理想なのか、連携が必要だと判断した方について情報を共有するために登録するのか。</p>
委員	<p>後者である。管理者に関しては、医師よりもケアマネさんにやって欲しいと感じている。招待するとか管理するとか医師には向かないと思う。なかなか普及しない。患者さんをよく把握し、みなさんが意見しやすいということが大切だと思う。そのケアマネさんが必要だと思った方から順番に参加してくればいいのではと思っている。</p>
委員	<p>バイタルリンクの管理者になったことがない。もう少し、ケアマネにも上手く伝えなくてはと思う。</p>
委員	<p>管理者にはすべての人がなれるか。</p>
支援室	<p>管理者は30という枠がある。</p>
委員	<p>医者6名とその他はケアマネさんとしてケーススタディー的に始めたが、そこから普及していない。管理者をやってくれるケアマネさんが増えてくれるとありがたい。</p>
支援室	<p>利用者さんが登録していなくても、たとえば一人の委員が業種の代表と</p>

委員	<p>して登録してくれると、そこで横のつながりが持てるということもある。</p> <p>そこに関してはワーキングチームと連携室でテスト的にやってみようという話をしています。</p>
支援室	<p>使っている方もよくわからず一部の機能だけを使っていたり、ＩＣＴの存在すら知らないという方もいると思う。まずは、知ってもらうところからと思っていて帝人ファーマも細かく説明してくれるので研修会を企画したいと思っている。連携室にもＩＣＴ担当がいるので連絡があれば対応する。</p>
委員	<p>４ その他</p> <p>・座間市第４次地域福祉活動計画アンケートについて</p> <p>現在第３次地域福祉計画を実行中である。座間市第４次地域福祉活動計画に関しては、令和４年４月から策定していくことになる。この計画については、住民の皆様にも広く多様な方に関わって頂き、身近な地域福祉計画にしていこうと考えているのでアンケートへのご協力をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>【次回】</p> <p>日時：９月１４日（火）１８時３０分～</p> <p>会場：サニープレイス座間 多目的室</p>